

第3章 長野市の歴史文化の特性

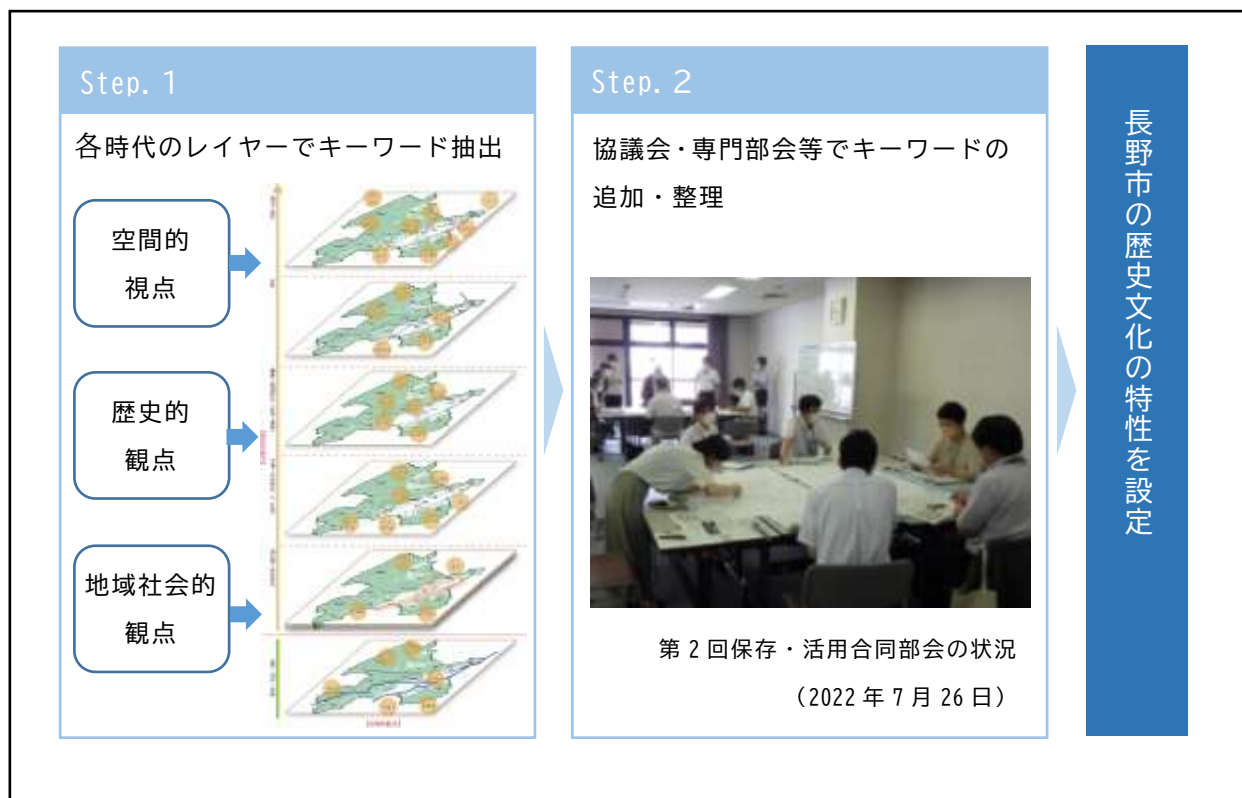
1 歴史文化の特性の整理の経緯

(1) 歴史文化の定義と特性

「歴史文化」とは、文化財とその周辺環境（文化財が置かれている自然環境や地域の歴史、文化財を支える人々の活動等）とが一体となったものを意味する。よって「長野市の歴史文化の特性」とは、長野市の歴史や文化にまつわる地域的な特色や、長野らしさをかたち作る文化財と、その周辺環境のことを示す。長野市の多様な文化財の価値や魅力を理解し保存・活用を考える上で、文化財を生んだ長野市の歴史文化の特性を踏まえることは重要である。

(2) 歴史文化の特性の整理の方法

歴史文化の特性の抽出にあたっては、空間的視点（自然環境や地形）や歴史的観点（時代区分）、地域社会的観点（出来事やテーマ）から想定される長野市のキーワードを出し合い、保存活用地域計画協議会での検討を重ねて、キーワードを抽出した。それらのキーワードを地質学的特性、交流拠点としての特性、人々の信仰としての特性、政治・経済的な特性、生活文化の特性という視点からまとめ直し、五つの歴史文化の特性を抽出した。



◎長野市の歴史文化の特性として抽出されたキーワード

		地質的特性	交流拠点	人々の信仰	政治・経済	生活文化
	自然	海だった長野/ 地すべり/地下 資源/地殻変動	千曲川/犀川	山岳/湧水地	複合扇状地/ 千曲川/犀川	複合扇状地/ 千曲川/犀川/ 西山
時代区分	原始	地下資源/自然 堤防/後背 湿地/扇状地	環濠集落	周溝墓	赤い土器のクニ	採集/農耕
	古代	シナノの呼称由来	馬事文化/東 山道	飯縄山/善光 寺縁起/戸隠 山/水神信仰/ 修験/荘園/末 法思想	前方後円墳/ 大室古墳群	荘園
	中世	山城	大塔合戦/横 田河原合戦/ 中先代の乱/山 城/川中島合 戦	善光寺聖/善 光寺如来の流 転	善光寺門前	環濠居館
	近世	戌の満水/善光 寺地震/鉾山 開発	北国街道/渡し 場/善光寺道/ 通船/講/宿坊 /門前町	戸隠信仰/戸 隠講/宿坊群/ 戸隠修験/里 修験/皆神修 験/作仏聖/出 開帳	善光寺本堂再 建/門前町/城 下町松代/真 田家の大名道 具/麻/山中紙 /漆/養蚕	都市祭礼/二 毛作/粉食/用 水/善光寺門 前の防火対策/ 木綿/麻/和紙
	近代・現代	石油/松代群 発地震	土木遺産/高 速道路/冬季オ リンピック・パラ リンピック	神仏分離/善 光寺講と宿坊/ 絵解き	県庁/鉄道/近 代建築物/善 光寺御開帳/ 商品作物/製 糸業/養蚕/竹 細工	祭屋台/獅子 神楽/煙火大 会/漁撈/内務 省堤防

歴史文化の
特性 1

歴史文化の
特性 2

歴史文化の
特性 3

歴史文化の
特性 4

歴史文化の
特性 5

◎歴史文化の特性一覧

歴史文化の 特性 1	大地の激動がもたらした恵みと災い
歴史文化の 特性 2	人々が交わる地「長野」
歴史文化の 特性 3	信仰が息づくまち「長野」
歴史文化の 特性 4	政治経済の中心「長野」
歴史文化の 特性 5	「長野」に生きる人々の暮らしと文化

2 長野市の歴史文化の特性

歴史文化の特性1 大地の激動がもたらした恵みと災い

長野市は北部フォッサマグナ地域に位置し、かつて海底だった場所である。その後の激しい地殻変動^{*1}を受け、現在は長野盆地と東西の山地からなっている。市域の最高峰、高妻山（標高 2353m）も海底だった場所^{*2}が隆起してできた山である。周辺の地殻変動は現在も続き、特に長野盆地を形成した西縁断層は変動量が 2,000 mを超える活動度の高い活断層であり、弘化4（1847）年の善光寺地震の震源ともなった。こうした断層の動きにより盆地が沈降し、千曲川や犀川等の河川が市内で合流し、シナノの呼称由来ともされる級坂を形成する扇状地や氾濫原、自然堤防や後背湿地など多様な自然環境を作った。また山地が隆起することで起こる地すべり^{*3}の跡は平坦で養分も多いので農地や集落が形成されてきた。こうした自然環境の多様性が素地となり、山地や盆地ではそれぞれの特性を生かした農耕や生活が営まれ、多様な生活文化を育成した。

また、地下資源^{*4}として油田や天然ガス・亜炭などのエネルギー源、石材として利用される火山岩類、さらに、湧水や地下水、温泉などの恵みを私たちにもたらしている。一方で、長野盆地の成り立ちは災害とも深くかかわっている。戌の満水、善光寺地震、松代群発地震、盆地西縁部や西山地区の地すべり、令和元年東日本台風による水害など、市域には私たちとその祖先たちが災害と戦いながら生き抜いてきた痕跡が数多く残されている。

キーワードと主要トピックス

- *1 地殻変動…活断層、長野盆地西縁断層、善光寺地震、盆地の沈降、山地の隆起
- *2 海底だった場所…シンシュウセミクジラ（信州新町）、セイウチ（中条・信州新町）ダイカイギュウ（戸隠・中条）、ホホジロザメ（戸隠）、シナノホタテ、ナガノホタテ、シガラミサルボウなどの貝化石（戸隠・鬼無里・中条・信州新町など）
- *3 地すべり…茶白山の地すべり、地附山の地すべり、地すべり地をいかした集落、芋井・鬼無里・七二会・中条などの棚田
- *4 地下資源…浅川油田、石油井戸跡、善光寺参道敷石（郷路山産）、柴石（松代）、髻石（髻山）、松代など各地の温泉



セイウチ化石



郷路山の石切場

歴史文化の特性2 人々が交わる地「長野」

長野市は長野県と新潟県との境界に当たる位置にあり、古くから内陸の山間地と日本海側をつなぐ交通の要衝^{ようしゅう}だった。様々な人々が交わる市域では、時代の節目ごとに数々の合戦^{がっせん}*1 が繰り広げられてきた。特に戦国時代に甲斐国^{かいのくに}（山梨県）の武田信玄^{たけだ しんげん}と越後国^{えちごのくに}（新潟県）の上杉謙信^{うえずぎけんしん}が激突した川中島の戦い^{かわなかつしまのたたかい}*2 は、400年以上が経った現在でも人々のロマンを掻き立てている。

江戸時代には千曲川と犀川が合流する長野盆地に北国街道^{ほっこくかいどう}*3 が整備され、北信濃の大動脈となった。また、山地でも生活の道としての往来^{わらい}*4 が数多く整備され、新町（信州新町）や鬼無里^{おにむら}*5などを拠点に人や物が集まり、盆地と信濃国西部の各地域との経済を結んでいた。こうした様々な道によって市域では他地域との交流が生まれ、経済が活発となり、多様な文化が集積される場となっていった。

近年では上信越自動車道や北陸新幹線も整備され、平成10(1998)年に開催されたオリンピック・パラリンピック冬季競技大会では世界中から多くの人々が市域を訪れた。

古来より多くの人々を迎え入れてきた長野市は、交流を軸として生み出されてきた多彩な歴史文化を現在に伝えている。

キーワードと主要トピックス

*1 合戦…環濠集落、横田河原の戦い、中先代の乱、大塔合戦、山城

*2 川中島の戦い…古戦場、関連史跡

*3 北国街道…街道沿いの街並み（宿場町）、渡し場、脇往還、谷街道、峯街道

*4 往来…松代往来、戸隠往来、高府往来、早川道など

*5 新町・鬼無里…鬼無里の祭礼屋台（山車）、町家など



横田城跡



鬼無里の屋台



稲積の一里塚

歴史文化の特性3 信仰が息づくまち「長野」

三国伝来とされる生身の阿弥陀如来を本尊とする善光寺*1は、中世以降、仏教では救済に条件が付され、戒律の関係から寺院への入山も制限されることのあった女性を積極的に受け入れるなど、社会の様々な人々と結縁する開かれた霊場として、多くの人々の信仰を集め、その門前も早くから町として発展してきた。現在でも善光寺は、全国から参詣者が絶えず訪れる一大霊場であり、その門前町も賑わいを見せている。市域は善光寺を筆頭に、中世から近世にかけて修験の聖地であり、水を司る神として近世には全国に名が知られていた戸隠山顕光寺（戸隠神社*2）や、近世に川中島四郡の本山派修験年行事職として地域の里修験者を統括していた皆神山和合院など、複数の宗教的拠点が存在する信仰のまちである。

近世には、里修験や聖と呼ばれる宗教者たちが地域の人々の信仰を支えていた。江戸時代に災害や飢饉に苦しむ人々を救済するため、虫倉山を拠点に念仏を勧め、仏像を作ることで人々の平穏を祈った作仏聖*3たちの作品は今でも村々に伝えられている。

明治時代初期には神仏分離令に伴う廃仏毀釈*4によりこうした信仰拠点や宗教者たちは大きく動揺するが、その苦難の時期を克服した現在でも、「長野」の人々の祈りの歴史文化は、現在の暮らしの中に息づいている。

キーワードと主要トピックス

- *1 善光寺…善光寺信仰（本堂ほか建造物群、宿坊、講、持郡制、常夜灯、出開帳・居開帳、善光寺縁起、絵解き、正月行事）、
- *2 戸隠神社…戸隠信仰（戸隠山、五社ほか建造物群、宿坊、講、古道、水神信仰、戸隠修験、柱松神事、杉並木）、飯縄信仰（飯縄権現、石仏）
- *3 作仏聖…木喰山居、善光寺大幸
- *4 神仏分離令に伴う廃仏毀釈…戸隠神社、皆神神社、寛慶寺仁王像、蓮華院仏像



善光寺本堂



正覚院の観音菩薩



善光寺大幸作の仏像

歴史文化の特性4 政治経済の中心「長野」の誕生

古代より交通の要衝であった市域には、古墳時代には前方後円墳などヤマト政権との結びつき*1を示す文化財が存在し、この頃には政治的なまとまりが生まれていたことをうかがわせる。

長野盆地の中心部、善光寺の周辺には後町（後庁）という古代の官庁跡*2を示す地名が残っている。古くから門前町*3として多くの人々が集まる地域であったため、政治の拠点も置かれたのであろう。また、川中島の戦いを契機に築城された海津城*4（のちの松代城）は、近世になると信濃国で最大の石高を誇る大名真田家の居城となり、城のある松代は城下町*5として発展した。

明治時代に入ると長野村の内、善光寺町に県庁が置かれ、また長野県で最初の市制が施行されると、県都にふさわしく様々な近代インフラ*6が整備されていった。中央通りには洋風の近代建築物*7の商家などが相次いで建てられ、現在につながる市街地としての景観が形成された。

現在私たちが暮らすまちの風景からは、「長野県長野市」の誕生へと至るまちづくりの歴史文化を見ることができる。

キーワードと主要トピックス

- *1 ヤマト政権との結びつき…川柳将軍塚古墳、出土遺物など
- *2 官庁跡…地名、出土遺物など
- *3 門前町…宿坊群、町屋、弥栄神社、善光寺三鎮守など
- *4 海津城…松代城、新御殿など
- *5 城下町…武家屋敷、泉水路、大名道具
- *6 近代インフラ…鉄道・道路整備、電気・ガス・水道整備など
- *7 近代建築物…藤屋旅館など参道沿いの建物、停車場、公官庁舎



埴輪円筒棺
(川柳将軍塚古墳出土)



松代城跡



開業当時の長野停車場



旧長野県庁舎

歴史文化の特性5 「長野」に生きる人々の暮らしと文化

市域では、山地*1・盆地*2 で多様な生活文化が育まれ、地域間の交流がなされてきた。山地・盆地の生産生業・商品流通を背景として郷土色豊かな食文化*3 が発展し、またかつては山地で生産される作物が商品作物として盆地の町場の生活を支えていた。おやきに代表される粉食^{こなしよく}は今も親しまれている。また、千曲川水系*4 の河川が流れ込み、かつては河川や用水を利用した漁撈^{ぎとらう}が行われ、通船^{つうせん}が行き交い、川とともに生活が営まれてきた。

多様な生活文化を背景にして、各地では多様な年中行事・祭礼・芸能*5 が行われてきた。現在でも道祖神^{どうそじん}の祭、獅子舞^{ししまい}、御柱祭^{おんぼらさい}などが盛んに行われ、神社や地域の祭事にあわせて花火の打ち上げも見る事ができる。善光寺門前をはじめとするかつての町場には屋台が残り、祭礼で巡行する姿も見られる。

キーワードと主要トピックス

- *1 山地…麻生産、麦作、養蚕、風穴^{ふうけつ}、山中紙^{さんちゅうし}、竹細工
- *2 盆地…木綿、養蚕、製糸、二毛作、堰
- *3 食文化…おやき、せんべい、おぶっこ、えご
- *4 千曲川水系…千曲川、犀川、つけば、漁撈、通船、荷上場^{にあげば}、用水、地割慣行^{ちわりかんこう}
- *5 年中行事・祭礼・芸能…道祖神祭、獅子舞、煙火^{えんか}、御柱祭、祇園祭と屋台、地蔵盆



犀川神社の太神楽



篠ノ井越の人形道祖神



ながの祇園祭



松代の御柱祭



おに^{おに}かまや^{かまや}の釜屋